

四日市市水道ビジョン 2019(案)(概要版)

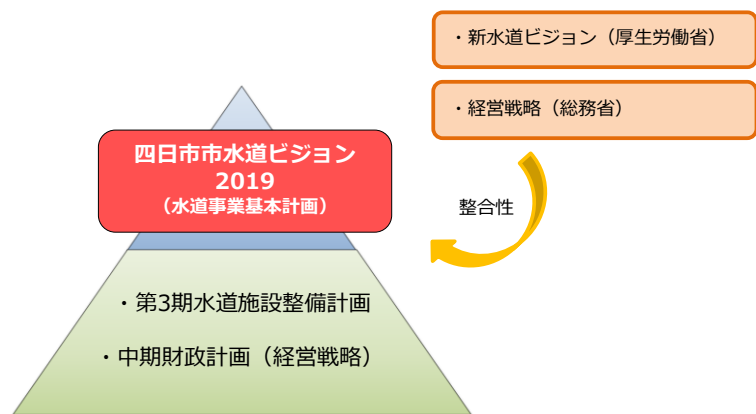
(水道事業基本計画)

1. 策定の趣旨と位置付け

本市水道事業では、安全で良質な水道水を将来にわたって安定的に確保し、お客さまから信頼される水道を目指して、平成 21 年 8 月に「四日市市水道ビジョン（以下「旧ビジョン」という）」（計画期間：平成 21 年度～平成 30 年度）を策定しました。

しかし、近年、人口減少社会の到来や東日本大震災の経験、水道施設の老朽化など、水道事業を取り巻く環境の大きな変化に対応することが求められるようになりました。

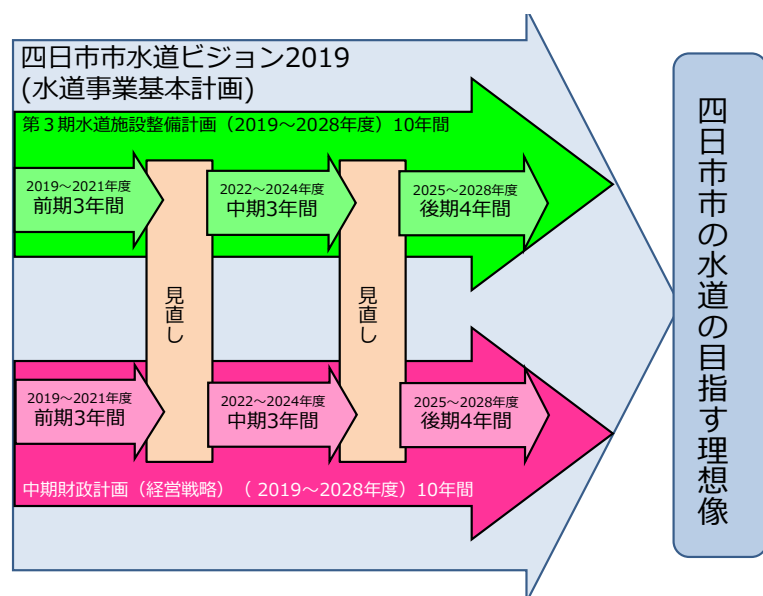
こうしたことから、お客さまへ将来にわたって安全で良質な水道水を供給し続けるため、重点的に取り組む施策を具体的に示し、効率的かつ効果的に水道事業の推進を図るため、「四日市市水道ビジョン 2019」を策定します。



2. 計画期間

計画期間は、2019 年度から 2028 年度までの 10 年間とします。

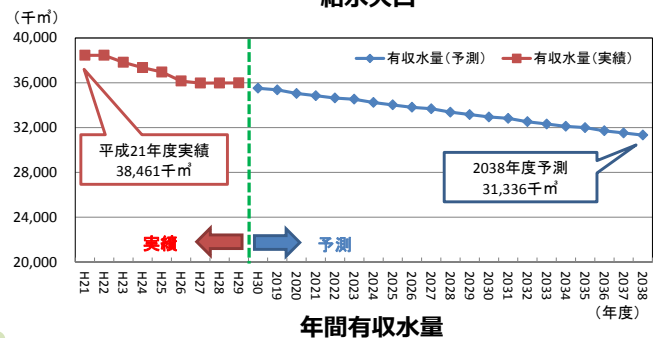
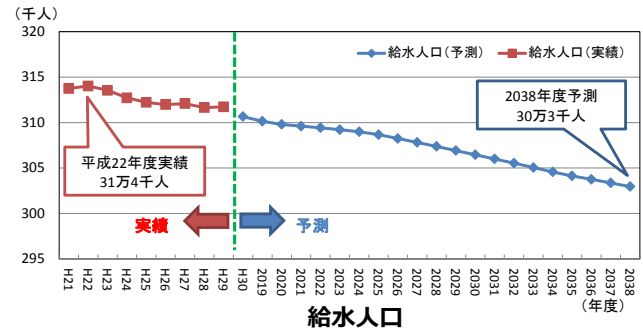
具体的に実施する事業や取り組みを「第 3 期水道施設整備計画」、事業や取り組みに係る投資と財源の均衡が図られるよう調整した投資・財政計画を「中期財政計画（経営戦略）」として策定し、計画期間を前期 3 年間（2019～2021 年度）、中期 3 年間（2022～2024 年度）、後期 4 年間（2025～2028 年度）の 3 期に分けて進捗管理を行い、事業環境や社会環境の変化に応じて見直しを行いながら、効率的かつ確実に事業を推進していきます。



3. 今後の事業環境

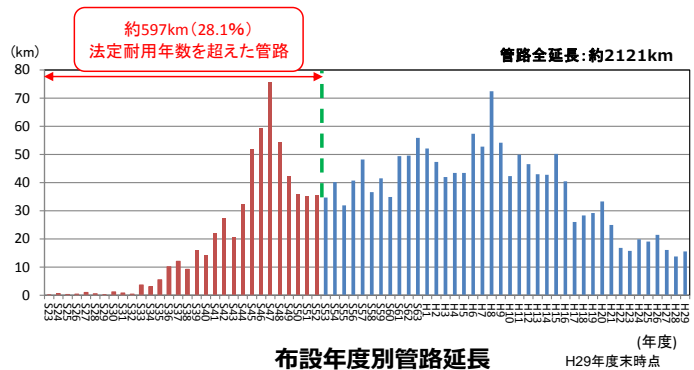
人口減少による水需要の減少

本市の給水人口は、平成 22 年度をピークに減少しており、「四日市市人口ビジョン（平成 28 年 3 月 31 日）」による人口推計を基に今後の給水人口を予測すると、減少していく見込みです。また、有収水量も、給水人口と同様に減少傾向を示しており、今後も人口減少や節水意識の向上などから減少していくと予測されます。このような水需要の増加が見込まれない状況においても、安定給水を維持する必要があるため、中長期的な見通しに基づく計画的な取り組みが求められます。



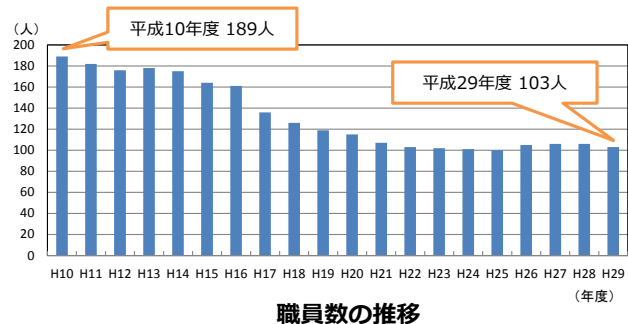
水道施設の老朽化と増大する更新需要

水道施設は、高度経済成長期に集中的に整備され、老朽化が進行しています。特に、管路では法定耐用年数である 40 年を超える管路が、平成 29 年度末時点で全体の約 28.1%になります。今後、給水収益の増加が見込めないなか、水道施設の更新需要が大幅に増大することが見込まれることから、中長期的な視点に立ち、効率的かつ効果的に更新を進めていくことが求められます。



人材確保と技術継承

水道事業に携わる職員は、年々減少しており、さらに高齢化が進行し、平成 29 年度末時点で 40 歳以上 50 歳未満が全体の半数程度を占める状況です。今後、水道施設の更新需要が増大するなか、ベテラン職員が退職を迎えることから、人材を確保しつつ、水道の技術やノウハウを次世代の職員に継承するための取り組みが求められます。



4. 基本理念と理想像

本市水道事業では、旧ビジョンにおいて、基本理念として「**“貴重な水”**と**“信頼の絆”**を**未来に**」を掲げ、あるべき姿として、「安全で良質な水道水を将来にわたって安定的に確保し、お客さまから信頼される水道」を目指してきました。

今後、水道施設の老朽化が進行し、更新費用が増加する中、少子化による人口減少社会の到来により、これまで経験をしたことのない厳しい経営環境が訪れようとしています。

「四日市市水道ビジョン 2019」では、このような状況の中でも、旧ビジョンの基本理念と目指す理想像を継承し、次のように掲げます。

< 基本理念 >

“貴重な水”と**“信頼の絆”**を**未来に**

< 理想像 >

安全で良質な水道水を

将来にわたって安定的に確保し

お客さまから信頼される水道

5. 基本方針

本市の掲げた基本理念に基づく理想像を見据えて、現状と今後の事業環境をもとに目指すべき方向性を、厚生労働省が示す新水道ビジョンで掲げられた3つの視点である「安全」「強靱」「持続」に基づき、次のように基本方針を設定します。

- 1. 安全** ～安全な水の供給で信頼される水道～
- 2. 強靱** ～災害に強く安定供給を継続する水道～
- 3. 持続** ～いつまでも持続可能な水道～

6. 施策方針と主要施策

基本方針に基づき、具体的な事業を行うための施策方針及び主要施策を設定します。

